

栃木県教育委員会定例会会議録

平成28年11月1日(火)、栃木県教育委員会定例会を栃木県庁南別館内教育委員室に招集した。

1 出席者（教育長及び委員）は次のとおりである。

1 番（教育長）	宇 田	貞 夫
2 番	吉 澤	慎 太郎
3 番	伏 木	由 佳子
4 番	工 藤	敬 子
5 番	陣 内	雄 次
6 番	岡	直 樹

2 議事に参与した職員は次のとおりである。

教 育 次 長	金 田	繁 夫
教 育 次 長	池 田	聖
参事（高校再編推進担当）	丹 羽	章 泰
総合教育センター所長	軽 部	幸 治
総 務 課 長	松 崎	禎 彦
施 設 課 長	江 連	隆
教 職 員 課 長	大 島	政 春
学 校 教 育 課 長	宇 梶	宏 美
特 別 支 援 教 育 室 長	中 田	誠 隆
生 涯 学 習 課 長	猪 瀬	清 隆
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	田 代	哲 郎
文 化 財 課 長	平 野	裕 満
健 康 福 利 課 長	伊 藤	純 一
総 務 主 幹	伊 澤	惠 治
人 権 教 育 室 長	鈴 木	浩 一
児 童 生 徒 指 導 推 進 室 長	赤 羽	修
学 力 向 上 推 進 室 長	田 村	
世 界 遺 産 登 録 推 進 室 長	羽 瀬	

3 午前9時30分、教育長及び委員は全員出席しており、委員会は成立したので、教育長は定例会を開催する旨を告げた。

4 教育長は、本日の会議録署名委員に4番工藤委員を指名した。

5 教育長は、本日の議案等のうち、第1号議案については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき、会議を非公開で行いたい旨を諮ったところ、全出席者の賛成により非公開とすることに決定した。

6 教育長は、報告を受ける旨を告げた。

7 報 告

- (1) 平成28年度中学校等生徒の進路希望調査(第1回)の結果について教育長から説明を求められ、総合教育センター所長が説明した。
この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

〔委 員〕

- ・ 県内県立高等学校全日制課程への進学希望倍率が1.23倍とのことだが、この値はどのように捉えればよいのか。

〔事務局〕

- ・ 前年同期と同率であり、過去5年間もほぼ横ばいで推移している。例年並みである。

〔委 員〕

- ・ 高等特別支援学校宇都宮青葉高等学園の進学希望倍率が1.39倍というのは、期待度が高い現れであると思う。あの立派な建物の中で、定員80名というのは限界値なのか。少しでも募集定員を増やせられないのか。

〔事務局〕

- ・ 当面は80名で進めていく。出願状況の推移や他県の取組などを見ながら、対応を考えていきたい。

- (2) 指導不適切教員審査委員会委員の委嘱・任命について教育長から説明を求められ、教職員課長が説明した。
この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

〔委 員〕

- ・ この審査委員会の委員は全員男性だが、男女比は気にしなくてよいのか。

〔事務局〕

- ・ この審査委員会の規定に男女比は定めていない。また、これは教育委員会の附属機関ではないため、行政改革推進室の要綱が示す男女比の規定には該当しない。

〔委 員〕

- ・ 女性がないのは、やはり違和感を覚える。

〔委 員〕

- ・ この審査委員会に教員を諮ることを決めるのは、どの組織が判断するのか。

〔事務局〕

- ・ この委員会に諮る前に、校内での研修や総合教育センターにおける週1回程度の研修を経て、その上でさらに研修が必要と見込まれた場合に事務局のほうからこの委員会に諮るものである。

- (3) 平成28年度栃木県中学校・高等学校運動部に関する調査結果について教育長から説明を求められ、スポーツ振興課長が説明した。
この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

〔委員〕

- ・ 高等学校の部活動加入率が年々増加しているが、この理由をどのように分析しているのか。

〔事務局〕

- ・ 個人個人にアンケートで入部理由を聞いているわけではないので、推測になってしまうが、4年前のロンドンオリンピックなどでの本県出身選手の活躍が影響しているのではないかと考えている。

〔委員〕

- ・ 先日、学校訪問した際に、ある高校の先生から、国体に向けて、高校の部活動の強化に取り組まないのかという質問があったが、どうか。

〔事務局〕

- ・ 今年から拠点校を指定し、強化に取り組み始めたところであるが、自分の学校が拠点校ではない場合、現場の先生には分かりづらいところもあるかも知れない。

〔委員〕

- ・ その先生は、運動部の部活の顧問に、自分の取り組んできた種目・スポーツではないものを割り当てられてしまうことに不満を持っていたが、異動に関してそうした配慮はしていないのか。

〔事務局〕

- ・ 人事異動に関して、教員の取り組んできた種目と部活動の全てをマッチングさせるのはかなり難しい。異動に関しての検討事項の一つではあるが、最優先事項とすることは難しい。保健体育の教員についても、種目に偏りがないように配慮している。

〔委員〕

- ・ 拠点校に関して、バドミントンはこの学校にしているのか。
- ・ それは盛んな地域を考慮しているのか、有力な指導者がいるところになっているのか。

〔事務局〕

- ・ 詳しい資料が手元になく、学校名は分からない。
- ・ 過去の実績を考慮し、また、そこにいる指導者についても加味して、指定している。

〔委員〕

- ・ 私の会社の従業員の子どもが中学生で、バドミントンの強化選手に選ばれているが、先を考えると私立高校に行かせるしかないような話をしている。それぞれの地域にそれぞれの種目の拠点校がないと、県立高校が選ばれなくなる危惧がある。どんどん増やすわけにもいかないのだろうが。

〔事務局〕

- ・ 種目によっては、県南、県央、県北と拠点校をバランスよく置いているものもある。なるべく幅広くカバーし、選手が県外に流出しないように考えていきたい。

〔委員〕

- ・ 昨今、50代、60代の大人の体力が充実していて、小学校、中学校の子ども達の体力が低下していると聞く。学校時代に、授業もそうだが、部活動に入って運動するという習慣をもつこと自体が、長い人生の中で、健康を保ち、スポーツを楽しむ生活を続けるきっかけになると思う。別に特別な選手になるというのではなくてよいので、教育の現場の中で何らかのスポーツに親しむようにして行ってもらいたい。

〔事務局〕

- ・ 今は、幼少期から、運動をする子、しない子と分かれてしまう、二極化の傾向がある。総合教育センターの幼児教育部と連携して、幼少期から運動習慣が身につくような取組を行っている。

〔教育長〕

- ・ 「栃木県教育振興基本計画2020」の推進指標でも「成人の週1日以上スポーツ活動実施率」を27年度の38.8%から32年度には50%まで上げるとしているところであり、PR等に努めて参りたい。

〔委員〕

- ・ 外部指導者というのは積極的に取り入れている状況にあるのか。

〔事務局〕

- ・ 県では地域スポーツ指導者派遣事業という事業を実施しており、市町独自で派遣を実施しているケースもあるが、県にあがってきた学校からの要請については、ほぼ全部の部活動に派遣できている。数にして200から250件くらいである。

〔委員〕

- ・ 今の件数は、全体の部活動から見れば、一部分の派遣であり、十分ではないと思う。文部科学省のほうでは、外部人材を活用する「部活動指導員」ということを検討していると聞いているので、教員の多忙感解消のためにも期待したい。

〔委員〕

- ・ 外部指導者を入れて、教員が教材研究や生徒と向き合う時間が確保できるようになればよいと思うので、よい考えだと思う。ただ、学校の部活動というのは、学校教育の一部だと思うので、外部指導者がスポーツを上達することだけを教えることでよいのだろうかとも思う。その辺のことも考慮しながら、外部指導者を積極的に取り入れていくことができれば、教員の負担感も減少するし、いい方向に向かうと思う。

- (4) 平成28年度本県児童生徒の体力・運動能力調査結果について
教育長から説明を求められ、スポーツ振興課長が説明した。
この報告に関して、出席者から次のような質問や意見等があった。

〔教育長〕

- ・ 資料2ページの下を表をみると、女子は、握力とボール投げ、男子は、握力、立ち幅とび、ボール投げが芳しくないが、回復の兆しを感じられるところはあるのか。

〔事務局〕

- ・ 握力、ボール投げについては、全国的にみても低下傾向にあるが、特に本県は、投・走・跳の運動、中でもボール投げが低い。年度当初にもお示ししたが、ボール投げ等に特化した取組ができる「チャレンジプログラム」を作成したところであり、それを活用しながら先生方にも取り組んでいただこうと活動を始めたところである。

〔教育長〕

- ・ 結果が出るのは、まだ少し先のようなのだが、よろしくお願ひしたいと思う。

- 8 教育長は、審議に移る旨を告げた。
- 9 教育長は、第1号議案については、先の決定のとおり、会議を非公開で審議する旨を告げた。
- 10 第1号議案 栃木県立博物館協議会委員の任命について
第1号議案は、審議の結果、原案どおり可決された。
- 11 教育長は、以上で本日の会議を終了することを告げ、午前10時35分、閉会した。